

小学校算数



1 単元における学習評価の進め方

単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、以下のように進めることが考えられる。

評価の進め方	1	単元の目標を作成する	<ul style="list-style-type: none"> ①、②については、学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説、児童の実態、前単元までの学習状況等を踏まえる。
	2	単元の評価規準を作成する	<ul style="list-style-type: none"> ③については、①、②を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。 どのような評価資料を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする。
	3	「指導と評価の計画」を作成する	
		授業を行う	<ul style="list-style-type: none"> ③に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげる。
	4	観点ごとに総括する	<ul style="list-style-type: none"> ④については、集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A、B、C)を行う。

2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成方法

【小学校学習指導要領 第5学年 目標】

〔第5学年〕

1 目標

(3) 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを探り、粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【学年別の評価の観点の趣旨 第5学年】

数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを探り、粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしている。

【内容のまとまりごとの評価規準(例) 第5学年 B 図形 (3)「平面図形の面積」】

三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の求め方について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを探り、粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしている。

【具体的な内容のまとまりごとの評価規準(例)】

- ・求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気づき、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めようとしている。
- ・見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。

【単元の評価規準(例)】

- ① 求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気づき、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めようとしている。
- ② 見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。

Point!

当該学年目標の(3)の「主体的に学習に取り組む態度」の「観点の趣旨」をもとに、指導事項を踏まえて、その文末を「～している」として、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

Point!

「内容のまとまりごとの評価規準(例)」に示された文言には、抽象度を上げて書かれているものもあるので、単元の評価規準としてそのまま用いるには適さない場合がある。具体的な書き方で文言の表現を揃えた「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

Point!

「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」をそのまま用いたり、分割したり、組み合わせたりして、「単元の評価規準」を作成する。

指導事項等

3 単元の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

- ① 求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気づき、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めようとしている。【態①】
- ② 見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。【態②】

4 単元の指導計画及び評価の具体的な場面（一部）

3の評価規準に基づき、「主体的に学習に取り組む態度」の評価場面や評価方法が示されている。

単元の指導計画

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(中略)				
7	台形の面積の求め方を考え、説明することができる。	○思①（ノート分析，行動観察）	○態①（ノート分析，行動観察）	

評価の実際

A…自ら複数の方法で既習の図形に帰着させて考えようとしている。

B…求積できる図形として根拠をもって変形したり分割したりしている。（長方形に等積変形している等）

C…既習の図形に帰着しようとする態度が弱い。（方眼の数を数えている等）

第7時の展開（一部）

2. 自力解決する。

- 解決①
- 解決②
- 解決③
- 解決④
- 解決⑤

・思①台形の面積の求め方を、求積可能な図形に帰着させて考える。（ノート分析，行動観察）

・態①求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気づき、台形の面積を求めようとしている。（ノート分析，行動観察）

評価の実際

A…いくつかの解決方法を根拠に考えようとしている。

B…一つの解決方法を根拠に考えようとしている。

Cと判断された児童には、個別に支援を行うとともに、公式を導き出していくときに、どのように考えていくとよいかを振り返らせることが大事だね。

単元の指導計画

9	ひし形の面積の求め方を考え、説明することができる。 ひし形の面積を求める公式をつくり出し、それを適用して面積を求めることができる。	・知①②（ノート分析，行動観察）	・思①②（ノート分析，行動観察）	○態②（ノート分析，行動観察）
---	--	------------------	------------------	-----------------

評価の実際

A…いくつかの解決方法を根拠に考えようとしている。

B…一つの解決方法を根拠に考えようとしている。

「(たて)×(横)÷2」や「(横)÷2×(高さ)」、「(たての対角線)×(横の対角線)÷2」などが書かれている。

第9時の展開（一部）

4. 解決方法の振り返りから公式を導く。

- 幾つもの方法で面積を求めることができたことをまとめる。
- 個々の解法の着想を振り返り、共通点を見だし、ひし形の面積を求める言葉の式をつくる。

・態②見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。

*共通点を見いだす発言がない場合は、式表現と図を対応させつつ、解法方法を再度確認することで、共通の点を見いださせるようにする。

評価の実際

全ての児童を評価することが難しい場合には、児童のノートを集めることで、全員を評価できるね。

チェックリストや座席表などを用意し、学習活動における状況を簡潔に記録に残したり、板書を写真に撮り記録したりしておくことで、評価の資料として用いることもできるね。

記録の総括の時期としては、単元末、学期末、学年末等の節目が考えられるよ。評価に係る記録が複数ある場合は、次のような方法があるから参考にね。

- 評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて総括する場合
- 評価結果のA、B、Cの数を基に総括する場合

他にも、さまざまな方法が考えられるよ。例えば、単元後半に高まりを示すことが予想される観点を総括する場合や、単元の学習内容のまとめとしている状況の評価をふくめて総括する場合には、そのことを考慮して総括することが適切だね。

いずれにしても、評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法は、教師間で共通理解を図り、児童及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切だね。